



## 東京支部が誕生



校友会員の小都市点在が顕著になりつつあるなかで、かねてより念願であった支部第一号が、東京で発足しました。佐藤良和顧問を相談役とした五人の設立準備委員会のメンバーが会則の草案を練り、東京近郊に在住する会員約六百名に呼びかけたところ、二百名近い方々から、愉快な近況報告とともに、支部設立への温かい御支援を頂きました。そこで去る平成三年十一月二十日、千足屋(中央区日本橋室町)において、発式を行いました。当日は、大阪の本部から関謙二会長と佐藤顧問、並びに磯崎定基先生(現・大東文化大)のご臨席を賜り、二十四名の会員と共に盛大な祝賀会が催されました。第一号の発式では、会員の皆様によって、会則案の承認と会長選出が行われて、初代会長に口村(文心)・51卒)氏を任命、引き続き第一回総会を開きました。(東京支部役員)登名(登生)

## 学長就任にあたって

追手門学院大学学長 後藤 幸男



追手門学院大学校友会の皆様方には、平素何かと御厚情、御支援の数々を頂戴しまして誠にありがとうございました。今後共変わらぬ御高導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

就任に際しまして痛感しましたことは、追手の戦略的展開の欠如と財政基盤の脆弱さでした。いまは「桃李言わざれども自ら蹊を成す」ような時代ではなく、積極的に自己主張をすべきときであり、こうしたなかで、大学冬の時代(私は水河期とさえ申したいのですが)を乗り切ることが不可能と思われず。そこで、外に向けてはイメージ・アップ戦略をとり、その手始めとして高校向けの入試改革を中心とするPRの強化を、社会向けには公開講座の拡充その他各種の社会的人向け教育の推進や学生の就職先の積極的開拓を、また外国に向

けては国際交流の飛躍的推進などを計り、それぞれ早急に実施せねば、と考えております。内に向けてはモラル・アップ戦略の展開が不可欠でしょう。まずアカデミックな雰囲気醸成し、先生方には学界で高い活躍を頂いて「追大は良い先生を揃えている」という評価を得たいものです。また職員の方々の御協力をえて、優れた教育、研究環境を整えたいと思います。それには何となくも円満な労働関係の確立が不可欠です。良好なコミュニケーションによって「和」を進め、さらに「和」を超えて追大の新しい学風の創造へと向かいたいものです。

いずれにしても大学の構成員全員が一致してやる気をもって「良い大学づくり」に邁進することが必要です。もう一つ長期的視野に立ってやらねばならないことは、時代や社会のニーズに 대응するユニークな学部、学科づくりです。しかしこれは容易なことではありません。大学の財政的基盤がきわめて脆弱だからです。遺憾ながら学舎の評価額が大学設置基準に示す水準に達していないこと、高校以下の各学校の累積赤字がかなりの額に達しているため、この赤字を増加させるような学部、学科増には支那が危惧の念をなしていることによるものです。ですが、こういう脆弱な赤字体質を何とか少しでも早く改善し、水河期の到来に万全の対策を立てなければ、と決意を新たにしています。こんなわけですので、今後ますます校友会の皆様方に御支援を仰がねばならないことが多くなるでしょう。しかし財政的支援をお願いすることばかりが私の真意ではありません。

### 基金募集のお願い

母校創立二十五周年を記念したブロンズ章牌が出来上りました。これは校友会が企画、造幣局が制作したものです。表側には北摂の山なみを背景に母校校舎(一号館)正面と学友を配した図柄です。裏側には、創立二十周年の時に制定したシボル・マークを中心に、周囲に桜花を配したレイアウトです。素材はブロンズで直径六・八センチメートル、重さ二五〇グラムと、ずっしりとした風格ある仕上りになっています。



本会では、創立三十周年に向けた「記念事業基金」の募集をこのほど始めましたが、一万円以上のご寄付を頂いた方に贈呈させていただきます。みなさんのご協力をお願い申し上げます。普通三〇四七六五 振込先 三和銀行茨木西支店

追手門学院大学校友会 「創立三十周年記念基金」





# 協力と交流展開を

## 交流を深め 友好を進めましょう

この度、私達は大阪追手門学院大学校友会の招きを受け、大阪との友好訪問のため、日本にやってきました。追手門学院大学、大阪府立大学、大阪府日中友好附属中国語学院を見学、訪問致しました。大阪、神戸、京都、奈良の名勝古跡を見学し、幸いに日本民族の祭りである、天神祭、なども見学できました。追手門学院大学校友会の皆様が私達の訪問期間に多くの様々な活動をして頂き、日本の大学教育、民族文化と人民の風俗習慣を理解する機会を得ました。七月の大阪は非常に暑かったですが、日本の皆様のご親切は天気よりも更に熱く感じました。私達は終始ずっと校友会の皆様との友好的な友情の雰囲気の中に居て、ますます日本人の中国人に対する真心のこもった友好的な感情を受けました。追手門学院大学校友会の私達への暖かな歓迎と親切な歓待に心より感謝致します。

訪問期間中、私達と貴校友会の会長、顧問、副会長の方々と誠意ある会談をし、お互い今後協力と交流の意向を展開し続ける事を確認致しました。皆様は友好がすでに一歩進んで発展し、協力は交流が一層強まり始める努力の必要性を私達に示しました。この新しい協力と交流の成功を祈ります。

この度の訪問の期間は短いものでしたが、この間友好が成り立ち始め、長く続く事でしょう。私達は両校友会の協力と交流のため多くの努力をし、中日両人民間の友好交流のため、多く貢献したいと考えております。

上海師範大学校友会訪日代表団  
顧問 鄭學焜 王 永堅  
一九九一年七月三〇日



相互訪問活動の継続や図書資料の交換を確認

### 顧問 中国での経済活動にも協力

各課長、佐藤良和教授、各副会長、各常任理事と校友会の皆様：  
今日は、私達は今年七月二十六日の午後、時間通りに上海に着きました。十二分に貴会と四校の友好訪問を終え、今度も大阪にいた頃のあたたかな温かな歓待と、至れり尽くせりなご配慮の情がまだありありと目に浮かび、今日まで私達は相変わらずあたたかな友好情誼の中にいる様です。特に佐藤先生には私達のために本当に念入りな段取りと、並びに見学に同伴して頂き、更に感謝致しました。皆様が真の友情、ご親切な歓待、行き届いたご配慮をして頂き、心より感謝致します。両校の校友会間の協力と交流について私達は友好の会談をす

### 熱の入った意見交換

上海師範大学校友会と追手門学院大学校友会との懇談会が平成三年七月二十四日、大阪・千里の千里阪急ホテルにて開かれました。今後、校友会同志の交流活動を発展させるべく、熱の入った意見交換が行われ、相互訪問による活動の継続や図書・資料などの書籍の相互交換などを確認しました。

以下、当日の懇談会の概要を報告します。

上海師範大学校友会会長 顧翔氏  
副会長 王永堅氏  
主任 鄭學焜氏  
副会長 平野昌雄氏  
副会長 大橋陽一氏  
常任理事 蟻柴潤一氏  
顧問 佐藤良和氏  
(通訳) 柯明賢氏

冒頭、副会長が訪日一行へのお礼の言葉、母校二十五周年祝賀会開催の中止による予定変更におおむねの言葉が述べられました。顧問はこれらに答えるとともに「この度の訪問を通じ、追手門学院の暖かい気持ちがよく理解できました。」

上海師範大学校友会会長 顧翔氏  
副会長 王永堅氏  
主任 鄭學焜氏  
副会長 平野昌雄氏  
副会長 大橋陽一氏  
常任理事 蟻柴潤一氏  
顧問 佐藤良和氏  
(通訳) 柯明賢氏

「以上のことは校友会同志の活動であるから、大学同志の交流活動以上のものが可能であると期待します」と、顧問は提案に言葉を添えていました。

顧問は当面、内部で語るものもあることから、図書資料の交換から着手する意思を伝えました。この部分を皮切りに懇談が進みました。

最後に、顧問が追手門学院大学校友会に対し、二十五周年記念の旗を贈呈することを発表。参加者それぞれが一層強い友好を確認しました。



そして、私たちの交流活動に対して、ますます自信を深めることが出来たと述べ、本格的な話し合いを行いました。顧問は次のような提案を行いました。

一、(両校友会の相互訪問)  
追手門学院大学の訪中を心より希望し、いつでも歓迎します。また、校友会員やその家族が上海を訪問したいなら、訪中に協力、歓迎する。

二、(教員の日本派遣)  
いつでも必要があれば、上海師範大学から教員を日本に派遣し、講演することは可能。

三、(図書・資料等の相互交換)  
上海師範大学校友会としては、日本の自然科学分野の資料を提供してほしい。我々も希望があれば、追手門学院へ資料を提供する。

四、校友会が中国で経済活動を希望するならば、出来る限り協力する。

### 上海師範大学訪日団同行記

訪日団歓迎委員長 蟻柴潤一



も無く、無事日程を消化し帰国されました。役員の皆様も「苦労しました。約二ヶ月前から訪日団の受け入れを準備していたにもかかわらず、いくつかの不備が判明するなど大騒ぎもあつたのですが、滞在中、何のトラブルもなく満足して帰っていただくことができました。

また、上海師範大学留学生の村松、鬼崎の両氏と通訳の方、何さんの同行を得て大変助かりました。ありがとうございました。

訪日中の行動を同行記風に追いつながら報告させていただきます。

十五日、到着の朝、自宅で空港へ訪日団を迎えのため着替えをしていると校友会事務局から電話があり、「到着が十七日に延びた」との事、「えらいこっちゃ」と大騒ぎで大学へ向かきスケジュールの



再調整になりましたが、これが大変だったんです。

すでに六月三十日の役員会に無理を言い役割分担を決めていただいたのですが、これがすべり、どうしようもなく、かたなしに泥縄式に「明日の事は今日決める」事にして十七日を待ちました。さて十七日当日、開会以下役員が空

港まで出迎えのなか無事に飛行機は大阪に降り立ち、顧問ははじめ王永堅、鄭学焜の各氏が到着されました。

さっそく追手門学院大学表敬訪問のため案内し、大橋学長、事務局局長と懇談され、学内の見学をすまされたのち、宿泊先の千里阪急ホテルへ、到着、旅装を解き小憩の後、訪日団担当役員が小宴を訪問されました。

三日目は常務理事が担当し、宝塚ファミリーランドと動物園に行きました。中国にはパンダはいるが白い虎はいないとおられたようです。宝塚歌劇を鑑賞、夕食は神戸の中華街へ案内し日本の中華料理を味わっていただきました。

四日目は私が担当し、虎で感激するのなら較ではどうだろうと大阪天保山の海遊館へ案内すると、ことのほか喜んでいただき、しばしの海中散歩を楽しんでいただくことができました。

昼食後、大阪城とツイン21という日本

### 上海師範大学訪日団滞在日程表

訪日団 団長 顧 翔 先生	ツイン21等
王 永堅 先生	18:00 夕食 江坂 レストラン「はや」
鄭 学焜 先生	21日(日)
滞在日程	9:00 千里阪急ホテル発
平成3年7月17日(水)→26日(金)	大阪 そごう百貨店訪問
協力者 通訳 柯 明堅 さん	虹の街等大阪中心部見学
方 曉芬 さん	昼食 そごう「美々卵」
上海師範大学留学生 村松 弘己 さん	自由行動
鬼崎 顯子 さん	夕食
17日(水)	22日(月)
10:30 上海発	9:00 千里阪急ホテル発
12:35 大阪国際空港着	万博記念公園・日本庭園
出迎え 12:30 国際線到着	民族博物館：千里セルシー
ロビーに集合	昼食 豊中「飛取」
追手門学院大学表敬訪問	ディスカウントショップ「ジャパン」
18:00 歓迎パーティー 千里阪急ホテル	18:00 夕食 江坂「カーニバルプラザ」
訪日団担当メンバー全員参加	23日(火)
18日(木)	10:00 千里阪急ホテル発
千里阪急ホテル発	中国語学院訪問
大阪府立大学訪問(摂生白鷺)	(訪日団よりの希望の為)
昼食	昼食
大阪府立大学訪問(天王寺・杉本町)	午後 自由行動
夕食	夕食
19日(金)	24日(水)
10:00 千里阪急ホテル発	8:30 千里阪急ホテル発
宝塚遊園ファミリーランド 動物園	京都方面
昼食 宝塚大劇場内レストランにて	嵐山・周恩来先生記念碑
13:00 宝塚歌劇観賞『ヴェネチアの紋章』	昼食 岡崎 京都府会館レストランにて
六甲トンネル→神戸・神戸港	近代美術館等・国立博物館
夕食 神戸元町「民生」にて	18:00 歓迎パーティー 千里阪急ホテル
20日(土)	25日(木)
9:00 千里阪急ホテル発	9:00 千里阪急ホテル発
大阪観光	奈良方面
天保山 水族館『海遊館』見学	若草山 他
昼食 海遊館レストランにて	昼食 大阪天神祭案内
大阪城	夕食 大阪都ホテル
	26日(金)
	10:50 大阪国際空港より離日

を催し、訪日を歓迎しました。この時点で二日目のスケジュールが決っていただけであり、また帰国の日も確定していったので内心は立派に決まりました。

二日目は大阪府立大学と大阪市立大学を訪問されました。

三日目は常務理事が担当し、宝塚ファミリーランドと動物園に行きました。中国にはパンダはいるが白い虎はいないとおられたようです。宝塚歌劇を鑑賞、夕食は神戸の中華街へ案内し日本の中華料理を味わっていただきました。

四日目は私が担当し、虎で感激するのなら較ではどうだろうと大阪天保山の海遊館へ案内すると、ことのほか喜んでいただき、しばしの海中散歩を楽しんでいただくことができました。

昼食後、大阪城とツイン21という日本

七日目は中国語学院を訪問されました。八日目は私の担当で京都の嵐山(周恩来訪日記念碑を見学)に行き、昼食のち岡崎の近代美術館、国立博物館を観光しました。

また、この日はホテルへ帰ってから校友会正副会長と会談があり、今後の両校友会の発展と交流のための合意を取り交わしました。

そののち別室において盛大に歓迎の宴を催し、上海師範大学校友会から本学創立二十五周年を祝う立派な旗を頂戴いたしました。

役員からは各自が選んだおみやげをお持ち帰り願いました。

九日目は佐藤顧問の案内で、奈良へ行き、若草山などを散策。夜は日本三大祭りの天神祭りを見学、日本の最後の夜を満喫していただきました。

十日目の二十一日、午後の便で帰国されました。

願をおたて記載する以上のような事になりましたが、私達としては日本の大阪のすべてを少ない時間で理解していただこうと努力をいたしました。終わってこころ無礼や引きつり回したような、慌ただしさだけが残ったような感じがしております。

なにして、訪日団を受け入れるといったことは初めての経験で、文化の違いから、何をどうすれば喜んでいただけるのか解らず、時間だけが過ぎるという感じがしております。

今後は、二十五周年記念パーティーが中止になり、訪日目的がうすれてしまいましたけれども、日中の友好を深めるといふ目的は達せられたと自負しております。

しかしながら、このつぎの訪日団受け入れの時にもっと時間的に余裕を持って、一ヵ所を十分に案内できるようにしたいと反省をしております。







3月11日 水曜日 専月 日 楽行 局

# メダル 強ライバル出現 業界に波紋

大蔵省造幣局が「大蔵省造幣局がメダル業界に参入し受注を伸ばしている」という記事の中で、追手門学院大学の校友会が1,200名の卒業生に造幣局の記念メダルを配る——と紹介されています。

このメダルは母校創立25周年を記念して校友会が製作したもので、平成3年度の卒業生から卒業記念として手渡されているもの。

メダル製作にあたり校友会では発注先を探していたところ、大蔵省造幣局が三年度より、民間に対する記念メダルの製造を受注するとの情報を得、多少価格的にはオーバーするが発注したものです。

第1期の契約は5,000個の契約で、現在までに約2,000個の納入を受けています。

大蔵省造幣局にとっても、民間との最初の契約になり、戸惑いもあったそうですが大変親切にして頂きました。この頃セールスにも慣れ、校友会の記念メダルを見本として数多くの成約を得ているそうです。



## 将来の競争激化 予想する業者も

大蔵省造幣局(大蔵省)が、記念メダルの製造を受注するに際しては、大蔵省造幣局のメダルを模範として、造幣局のメダルのデザインを参考に、メダルのデザインを考案する業者が増えている。大蔵省造幣局のメダルのデザインを考案する業者は、大蔵省造幣局のメダルのデザインを考案する業者が増えている。大蔵省造幣局のメダルのデザインを考案する業者は、大蔵省造幣局のメダルのデザインを考案する業者が増えている。

1992年(平成4年)7月23日(木曜日) 追手門学院大学校友会会報

# 学ぶのは自分が よりよく 変わるため



「親も子と共に高め合おう」というテーマで、親と子が共に学ぶことの重要性を説く。親と子が共に学ぶことは、お互いの成長を促すだけでなく、家庭の絆を深めることにもつながる。生涯学習を通じて、自分自身を高め、社会に貢献する姿勢を身につけることが大切である。

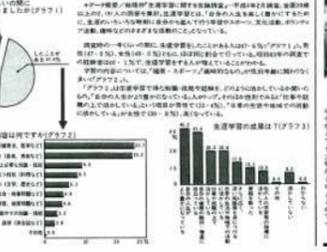


生涯学習を 考える

生涯学習とは、学校教育や職業教育に限定されず、生涯を通じて学び続けることを指す。これにより、個人の能力を伸ばし、社会の発展に貢献できる。

二点目は、母校が地域に貢献するために協力している「茨木市生涯学習センター」運営委員長に母校教育研究所の佐藤良和氏(本会顧問)が就いています。この読売新聞では「親自身が学ぶことで、母親や父親としてでなく人間的に活性化すると生涯教育の重要性を説いています。家庭で“地軸”になりかけていた編集子には反省させられた内容でした。

### 増加する生涯学習経験者



「知る」は生きる力

知識は生きる力。生涯学習を通じて得た知識は、日常生活や仕事に活かされ、より豊かな人生を送るための鍵となる。